

令和２年度 第１回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和２年７月10日（金）14：00～15：30

▼会 場：千歳市役所第２庁舎会議室５・６

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	吉村 恭子
（教育部）教育部長	千田 義彦
教育部次長	村井 安之
学校指導室長	椿野 次雄
企画総務課長	浅野 浩司
学校教育課長	高橋 裕輔
学校指導課長	大西 智彦
企画総務課総務係長	阿部 健
（事務局）企画部長	島倉 弘行
企画部次長	小尾 千智
企画課長	澤田 篤
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	田口 智也

▼内 容

○島倉企画部長

ただいまから、令和２年度第１回千歳市総合教育会議を開催させていただきます。はじめに、山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

今日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響もあり、皆様方とお会いする機会が少なくなっておりましたが、本日は、このように今年度第１回目の会議を開催させていただきます。

これまでも皆様方には、教育行政に対する大変なご支援とご協力をいただき、ありがとうございます。コロナの関係で皆様方には大変ご心配をお掛けしておりますし、また、学校におきましても、学校自体あるいは子ども達にも影響があり、大変な思いをしたことと思いますが、一日も早く収束を図り健全な日常に戻りたい、このように考えております。

それにつきまして、教育に係る色々な課題が山積しておりますが、これにつきましても教育委員会の英知を結集し、皆様方のご理解をいただきながら一つ一つ解決し、なんとか子ども達の教育や自主性が失われないよう努めていきたいと考えております。今日はそのような議題も提示しておりますので、忌憚ないご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

○島倉企画部長

この後の進行につきましては、千歳市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が議長を務めることとなっておりますことから、山口市長にお願いいたします。

○山口市長

それでは、次第に従いまして進めたいと思います。まず、はじめに令和元年度の教育施策と今年度の取組について、説明をお願いします。

○千田教育部長

それでは私から説明させていただきます。

お手元の資料「千歳市教育施策の令和元年度実施状況と令和2年度の主な取組」をご覧ください。

（「千歳市教育施策の令和元年度実施状況と令和2年度の主な取組」について説明。）

多岐に渡る内容の説明をさせていただきましたが、テーマを絞りまして、「学力向上の推進」の中で令和2年度重点的に取り組む事項について説明いたします。

○大西学校指導課長

私から説明させていただきます。よろしくお願いします。

（令和2年度重点取組事項 「親和的な学級100%の達成」について説明）

○山口市長

それでは、只今の説明について意見をお聞かせください。

○佐々木教育長職務代理者

クラスの中で教師や友人から認められ、トラブルやいじめなどの不安がなく、リラックスできる親和的な学級に所属していることで、学習意欲は高まり、学力が向上するのだと理解しております。

親和的な学級集団と学力との関係は、具体的にどの程度関連が見られるのか教えていただけますでしょうか。

○大西学校指導課長

本市においては標準学力検査を毎年行っています。前年度の学習の習熟度がどの程度か測るものです。そのほか知能検査も行っています。それらの結果とハイパーQ U検査をリンクさせて分析しておりますが、親和的であるということは居心地が良くて安心感がある状況です。そういう学級ではいじめの発現率も低下すると思いますし、学習への意力も高い傾向にあると捉えています。

学級集団の状態が良好な「満足型」の学級は、標準学力検査等の結果を分析すると、いわゆる「オーバーアチーバー」の子ども達が多数いる傾向にあります。オーバーアチーバ

ーとは、知能検査結果に基づく期待値よりも学力検査の結果が高い児童生徒のことです。
学習環境が良いことで子ども達もよく頑張り、良い結果が出ていると捉えています。

○橋場委員

学級の児童生徒の実態は、いつも一緒に生活しているので十分に分かっているという先生達が多いのではないかと思います。

実際にハイパーQ U検査を行って、担任の先生が思っていた認識とずれが生じているということはあるのでしょうか。

○大西学校指導課長

ハイパーQ U検査を開発した早稲田大学の河村教授に研修会に来ていただき、直接、全教職員が話を聞いています。全ての子ども達の4区分の位置関係を認識できる担任の先生は10%程度しかおらず、半分位の先生は半分位の区分しか分からないという研究結果を発表されています。現場の先生方からは、予想外の結果が見えた、1回目と2回目の推移がはっきり見えた、といった話を聞いています。

○椿野学校指導室長

補足をさせていただきます。千歳市では、ハイパーQ U検査を平成26年度から導入したと記憶しておりますが、当時は小学校3年生以上を対象に年1回行っており、その後、平成28年度からは全学年に年2回実施することになりました。

当時、私は市内の小学校で教頭をしており認識が甘かったと思っていますが、教頭会議の中で小学1、2年生はやらなくてもいいです、という主張をしていました。担任がよく見ていれば1、2年生は担任にも時間に余裕もあるので大丈夫ではないですか、と言っていたのですけれども、実際に全学年に検査をやってみると、1年生も色々な幼稚園や保育園等から入ってきた中での結果が出ています。小学校の担任は、それまで結構自信を持っていたのですが、検査結果を見て、半分位の教員しか認識できていないという現実を知ったという状況です。

○橋場委員

検査を繰り返し実施しているうちに満足型に近づいているのか、そうでないのか現状を教えてください。

○大西学校指導課長

クラス替えをすると集団としてバラバラになってしまいますので、繰り返していくうちに段々と良くなるという訳ではありません。発達段階によっても違いますし、必ずしもそういう傾向にはならないのですが、毎年6月と11月に検査を行っておりますけれども、節目節目で検査をすることによって、担任が自分の学級経営を振り返ったり、学校にとって何が課題なのかということを見出していくことに非常に役立っていると思っています。

○荒井委員

資料に記載されている「親和的学級集団の割合の推移」についてですが、小学生は概ね2回目の検査結果が上昇しているのに対し、中学生は同じく低下していますが、どういっ

た要因が考えられますか。

また、小学校のクラス替えは2年毎に行う学校が多いと思いますが、1年生から2年生に上がった際に同じクラスなのにどうして2年生の6月が下がっているのか、要因としてどのようなことが考えられるでしょうか。

○大西学校指導課長

中学生の検査結果が低下している点からですが、中学校は複数の小学校から入学してくる学校が多いこと、教科担任制への変化、部活動など生活が大きく変化しているということが考えられます。また、集団としての新たな規律が進学することで発生してくると思います。例えばマナー、モラル、ルールが徹底されてくるということになります。

そして規律が徹底されると、資料の4ページ目の型になりますが、中学校に多いのが「管理型」、右側に寄っている型が多く出現します。これはルールをしっかりと守らせる、という型になりますので、堅さの見られる集団という言い方をします。しかし、これが悪い傾向という訳ではなく、入学や進級によって新たにできた学級集団で、規律を徹底させることでタテ型の集団が一旦形成されるという状況です。次のステップとして右下にある非承認の群、この子達を上（認められている・承認されている）に押し上げていくという取り組みをしていきます。そうすることで「満足型」に近づけていこうという取組を担当や学年、学校がしていくという考え方になります。

もう一点の小学校4年生の低下については、この一因だけでは説明ができないのですが、現実には下がっているということは学校間にもよりますし、学級にもよります。そして3、4年生は持ち上がりとはいえ、担任が変わってしまうケースもあります。ハイパーQ U検査でこういう結果になっていますが、それぞれの要因があるものと考えており、個々の学校で指導・助言をしながら進めているというのが実態です。

○吉村委員

学習能力の部分だけではなくて、検査結果を全職員で共有するのはすごく大事なことで、いじめや不登校、特別な支援が必要な生徒を、この検査によって早期に見つけることができていると聞いています。担任だけに任せるのではなく、学習支援員や相談員がおりますので、学校全体で取り組むきっかけになっていると思うので、千歳市はすごいなと思っています。担任の先生は多岐に渡り色々なことをしなければならないので、助け合える部分を学校現場で共有しながら頑張っていたいただければと思っています。

○椿野学校指導室長

吉村委員が今おっしゃった通りで、中学校では教科によって先生も変わりますので、学年団と言われる生徒指導を以前からして、学校が荒れたりした時などは、学年で対応するという風土があります。小学校というのは昔から担任王国と言われるところがあり、逆に言いますと色々な事を担任の責任で行っていたところがあります。

ハイパーQ U検査をただ行うのではなく、その結果を分析し、担任のせいにするのではなく、学校全体で色々な策をしていこうということです。現場では学校力という言い方をしていますけれども、この検査をきっかけとして担任外や特別支援員と力を合わせてみんなで行くという雰囲気が作れてきているのではないかと思います。

○佐々木教育長

一つご紹介させていただきますが、学校の様子については、石狩教育局に事務教育指導官という方がいて、その方は石狩管内全ての小中学校を見ておりますけれども、年に2回その指導官の報告を受けております。その時のポイントとして、それぞれの学校長のリーダーシップもありますが、その学級の様子、この学校は落ち着いているとか、ピンポイントで何年何組は、という風にお話をされます。その指導官の感覚や経験によって色々と指摘されるのですが、私としてはそういう認識ではなかったことを指摘され、気付くこともあります。それとは別に客観的にこういう検査によって、担任の感覚と違う結果が出ているということは、やはり感覚だけでやってはいけないということだと思っています。

学力の向上は非常に重要ですが、その前提条件として親和的学級というのが重要だと思っていますし、この検査を引き続き行っていきたいと考えています。

○山口市長

他にご意見などありませんでしょうか。なければ次に移ります。「新型コロナウイルス感染症への対応と学びの保証」について、説明をお願いします。

○高橋学校教育課長

「新型コロナウイルス感染症への対応と学びの保障」について、説明いたします。

(新型コロナウイルス感染症への対応と学びの保証について説明)

○山口市長

こちらについても自由に発言をお願いします。

○佐々木教育長職務代理者

新型コロナウイルスについては、どうすれば良いのか結論が出ない中で様々な感染症対策に取り組んでいると思いますが、子どもたち自身がこの感染症について理解し、適切な対応を取れるようになることが重要だと思います。学校ではどのような指導が行われているか、具体的に教えていただけますでしょうか。

○高橋学校教育課長

子ども達の発達段階がありますので、一律に同じような教え方ではいけないと考えています。どういう条件で感染するのか、それを防ぐためにはどのようなことが必要なのか、発達段階に応じて指導を行っている状況です。

具体的には、手洗いの方法や咳エチケットなど基本的な内容を丁寧に教えています。

○佐々木教育長職務代理者

マスクをしていることによって、健康的に不調を訴える児童生徒はいないのでしょうか。

○高橋学校教育課長

具体的に相談として上がってきているものはありません。

また、各学校で何が何でもマスクをしなければならないという指導をしている訳でもあ

りません。時期的にも熱中症の心配がありますので、文部科学省でもマスク着用についてのニュアンスが弱まってきておりまして、コロナ対策以外にも子ども達の健康安全に関わることがありますので、いつでもマスクを着用しなければならない訳ではない、という前提で対策を取っています。

○荒井委員

熱中症のことを考えますと水分補給が必要になると思いますが、学校の蛇口を使うと口を付けてしまうということも懸念されます。水筒の持参を推奨ということはしているのでしょうか。

○高橋学校教育課長

ご家庭で希望する場合には水筒を持参するなど、持参することを強制する訳ではありませんが、必要に応じて水分を接種してもらうよう指導しています。

○橋場委員

6月から学校が再開されました。休校による学習の遅れを取り戻すため、授業時間の確保に各学校で色々な工夫が行われていると思いますが、実際の対策や取組として、どのようなことを行っているか教えていただけますか。

○高橋学校教育課長

学校行事の見直しや夏休みの短縮など、過密な内容で学習に取り組んでもらうことになります。学校にもよりますが、通常6時間授業が最大のところ、7時間授業を行うなど各校で工夫をしている状況です。子ども達が学ぶべき内容を学べないまま卒業してしまうことがないように、子ども達の負担にも配慮した上で最大限工夫をして取り組んでいます。

○橋場委員

マスクを着用していることより、通常よりも表情や感情が見えにくくなっていると思いますが、それによってトラブルが起きたということはあるですか。

○高橋学校教育課長

特に報告は受けていませんが、小学校1年生などはともだちができる前に現在の状況になっていますので、先生たちは相当気を付けて子ども達の様子を見てくれています。

○荒井委員

表情だけではなく聞き取りにくいという問題があると思います。無視されたと勘違いする様なトラブルも低学年だと懸念されるのではないのでしょうか。

○高橋学校教育課長

少し話がずれてしまうかもしれませんが、学校では会話をなるべくしないようにしていきまして、そのせいで友達ができにくい、学校に行っても楽しくないという声もあります。

コロナの対策も取らないといけませんが、市内ではしばらく感染者が出ていませんし、北海道全体としても少し落ち着いている状況ですので、禁止するばかりではなく、出来る

ことを少しずつ増やしていくということを段階的に始めたところです。

○荒井委員

休業期間中の家庭学習についてですが、家庭の事情や個人の意欲などによって、どうしても差が生じていると思いますが、小学校低学年はもちろん、中学生についても個人のモチベーションによって全然違うと思います。学習内容の定着が不十分な子ども達が心配ですが、補習や追加の家庭学習についてどう考えていますか。

○高橋学校教育課長

休業期間中は課題を出しておりましたが、提出してもらったものを確認して、子ども達の定着状況を把握するよう各学校に指示をしています。定着状況については、差が出てしまうのはやむを得ないと思いますので、それぞれの子どもに応じて補充学習を出したり、放課後の補習についても考えられると思います。

しかし一方で、子ども達にも相当な負荷が掛かっておりますので、そこを見極めながら学習にも差が生じないようにということで、現場の先生たちは大変苦労しながら指導してくれています。

○荒井委員

通常だと夏休みである期間の午前授業の日に午後から補習を行うということは考えていますか。

○高橋学校教育課長

学校によっては実施するかもしれませんが、給食を出さない期間を設ける判断をした理由として、校長先生たちの意見を聞き、子ども達の体力的な面を配慮してのもので、あまりその期間に過密にすべきではないというところがあります。

○荒井委員

夏休み期間を短縮することによって、宿題もないのではないかという声も聞こえていますが、自由研究もなかったり、学校としても色々に対応しなければならないので大変だと思います。

○吉村委員

2月から休校となっていたことを考えますと、授業時間の確保が重要なのだと思いますが、やっと学校が始まったかと思えば学校祭等の行事も実施できないという状況ですが、部活動は行っているのでしょうか。

○高橋学校教育課長

中学校の部活動については、最初の1週間は行わないよう指示をしておりましたが、2週目以降は感染リスクを避けながら再開しています。

○吉村委員

全国的にも中体連の全国大会、地区大会が中止になっています。学習も大事ですが、中

学生にとっては部活動の絆もすごく大事だと思います。

何らかの形で子ども達の日頃の活動の成果を発揮できるような行事があると良いと考えているのですが、その点について検討していただきたいと思います。

○高橋学校教育課長

中体連の夏の大会がすべて中止となっておりますが、子ども達が2年あまり部活動に打ち込んできた心情に配慮しまして、その成果を発揮する場を設定する必要があるのではないかと文部科学大臣が要望しています。これらを受けまして、競技毎に工夫をし、管内規模の大会開催の動きが出ています。様々な活動が制限されている状況ではありますが、受験に向けて切り替えていくための節目となる場が必要だと思いますので、教育委員会としてもできる限りの支援をしていきたいと考えています。

○山口市長

今からその様な大会の開催が間に合うのですか。大会に向けた準備などが必要だと思いますが、すでに行っているような事例はありますか。

○高橋学校教育課長

すでにいくつかの競技では開催するという話があり、8月を開催時期とし、1日で完結するような大会を行うという話を聞いております。

○佐々木教育長職務代理者

千歳市だけでなく全国的な事態なので、現状を理解している子ども達も相当いるのではないかと思います。みんなが大変なのだという認識を持っていると思いますが、教育的に考えますと非常に良い経験をしていると思います。

その中での修学旅行についてなのですが、ただ単に観光目的で泊まりに行くというものではありませんので、学校生活の中でも強い印象として残る教育的体験活動であり、その教育的意義は大きいと考えています。また、その行先の決定については、PTAや保護者の意見が非常に大きいと聞いておりますけれども、陸路による道内での修学旅行の実施について各学校での検討状況はどうなっていますでしょうか。

○高橋学校教育課長

修学旅行は、中学校ですと4・5月、小学校ですと6・7月に行うという学校が通常だと多いのですが、コロナの影響ですべて9月以降に延期することが決定しています。

行先については、小学校はもともと道内旅行なので大きな影響はないのですが、中学校についてはもともと関東や関西を予定している学校が多かったのですが、それが東北へ変更し、さらに場所を道内へと変更する学校がほとんどでして、一から旅行プランを作り直しているという状況です。

○橋場委員

I C Tを活用した取組の説明がありましたが、報道等ではオンライン授業という言葉も聞きます。今後、臨時休校となったときに、学校と家庭をつないで、オンライン授業をすることについてはどのように考えていますか。

また、児童生徒に1人1台の学習者用コンピュータの整備に向けて、市はどのように取り組んでいますか。

○高橋学校教育課長

オンラインの学習指導と括ったときに色々なものがありますが、学校ホームページを活用した情報発信や動画の配信もオンライン学習に含まれます。一般的にはオンライン授業といえますと、双方向でのコミュニケーションが想定され、同時並行的に相手の顔が見えてということになると思いますが、WEB会議システムを活用した授業となりますと、先生は一度に生徒40人程の顔を見ながらの授業となり反応が見えにくいということもありますし、教える側にも技術が必要となります。また、受け取る側の児童生徒にも端末を使うためのスキルが必要ということで、現時点としては授業ができない時にオンラインで代替的に授業を行うということは簡単にはいかないと考えています。

これまでも文部科学省や北海道が紹介しているWEBサイトの紹介や、ホームページによる情報発信などを行っておりまして、今後も効果的な指導方法について研究していきたいと考えています。

○浅野企画総務課長

学習者用コンピュータの整備については、私から説明させていただきます。

学習者用コンピュータの整備はすでに進めておりまして、まずは3クラスに1クラス分の整備ということで、昨年度からの繰越分と今年度の当初予算に機器の購入に掛かる費用を計上し、整備を進めています。また、7月20日(月)に予定しております市議会の臨時会における補正予算で追加整備ができないかということで、市長部局と協議を行っているところです。ここまでできますと、当初3年間程度かかる予定であった3クラスに1クラス分の整備を、今年度中に行うことができるということになります。

運用面につきましては、具体的な活用方法を整理した上で、先生たちに対し操作方法等の研修をしっかりと行い、導入を進めていきたいと考えています。

児童生徒1人に1台の整備については、機器の更新時期を見据え整備を進めていきたいと考えていますが、先生たちの操作スキルの向上も運用する上で欠かせないと思いますので、それらを踏まえまして段階的に進めていきたいと考えています。

○荒井委員

感染者、濃厚接触者とその家族や、治療にあたる医療従事者とその家族等に対する偏見や差別につながるような行為は、あってはならないことだと考えています。コロナになるのは悪いことではないのだ、ということを教えていただき、コロナによるいじめがないよう学校や先生たちには指導していただきたいと考えています。

○高橋学校教育課長

市内で感染が拡大した際には、福祉施設や医療関係者の児童生徒を登校させないでほしい、という極端で感情的な意見もありました。

感染拡大を防ぐためには、正当な範囲で出席停止などの措置を取らざるを得ないのはもちろんですが、それによって過剰な反応をすることで本来そこまでする必要のない人達の教育を受ける権利が侵害されるようなことはあってはなりませんので、各学校と情報交換

を図っており、十分に配慮するよう指導しています。子ども達に対しても、偏見・差別があってはならないという指導をしておりますし、今後も引き続き行っていきたいと考えています。

○荒井委員

このような状況の中で家庭訪問や参観日がなくなり、先生と保護者、保護者間の繋がりがも少なくなっていると思います。子ども達を守るには地域が一体となる必要があると思いますので、保護者と協力し合える体制の強化をお願いしたいと思います。

○吉村委員

教育委員会や市長のコロナに対する対応に感謝します。文部科学省から示される対応が二転三転して本当に大変だったと思いますが、その中でいち早くアルコール等の設置を各学校に平等に行っていただきました。

児童生徒の中には、自分や家族も感染するのではないかと不安や恐れを抱くなど、ストレスを抱えている子ども達もいると考えられます。学級担任や養護教諭による健康観察のほか、健康相談やスクールカウンセラーによる支援を行うなど、心の健康問題に適切に対応いただくようお願いします。

○佐々木教育長

6月から小中学校を再開し、少し落ち着いてきてはありますが、対策についてはそれぞれの学校でしっかりと行っております。

先日、校長会がありまして、そこで各学校の校長先生と情報交換を行ったのですが、各学校でどのような対策をしているのかを一つの資料にまとめています。その資料を見ますと各校で本当に色々な対策を行っていきまして、他校の参考になるものもあります。色々な経験を積み重ねていく中で良い方向に向かっていると思いますし、今後も工夫していくしかないものと考えています。

学校が再開する前は、再開しても部活動も何も出来ずにそのまま卒業するのではないかと考えられておりましたが、大きな大会はできなくてもけじめを付けるような機会を設けることができる様な状況になってきています。感染リスクと活動のバランスが徐々に良い方向に向かっているのではないかと実感しています。

今後どうなるかは分かりませんが、試行錯誤しながら対応していくしかないと考えています。

○山口市長

今は市内で感染者は出ておりませんが、また出るということを想定し準備しています。

教育委員会にあっては、児童生徒に感染者が出た際に学級閉鎖、学校閉鎖、地域閉鎖といった段階がありますが、それについては協議していきたいと思っています。

これまでの第一波を振り返り言えることとしましては、コロナに対する未知の恐怖心に煽られているということだと思います。自分や家族の身を守ることはもちろん大切ですが、過剰になり過ぎるのもいかなるものか、それによって大人が争っている様子を子ども達が見てどう思うのかということです。過剰になり過ぎるあまり、いじめに繋がるということがあってはならないですし、子ども達に学校が危険なところだと認識してほしくないと考

えています。個人的には学校が一番安全なところだと考えていますし、危ないところだと思ってもらわないようにしなければならないと考えています。

今後も教育委員会と市長部局でしっかりと対策を取っていきたいと考えておりますので、教育委員の皆様にも適切な助言、ご意見をいただければありがたいと考えております。

○浅野企画総務課長

その他としまして、千歳市教育振興基本計画の策定について、私から説明させていただきます。

千歳市教育振興基本計画につきましては、教育委員会の方で現在策定を進めており、千歳市教育大綱と密接な関係にありますことから合わせて説明をさせていただきます。

市では第7期総合計画の策定作業を進めておりまして、その個別計画である千歳市学校教育基本計画と千歳市生涯学習基本計画の見直しを行う年となっており、新たな計画の策定を進めております。千歳市教育大綱につきましては、総合教育会議において市長と教育委員会が協議・調整し市長が策定するものとなっており、期間は令和2年度までとなっております。このため、本日お時間をいただき、千歳市教育振興基本計画の策定について説明させていただきます。

(千歳市教育振興基本計画の策定について説明。)

○山口市長

こちらについて意見はありませんか。

なければ、以上を持ちまして議題について終了させていただきます。

○島倉企画部長

事務局から諸連絡をさせていただきます。

次回の会議につきましては、11月頃に開催予定です。この他、緊急的に開催が必要な場合につきましては、随時開催致しますのでよろしくお願い致します。

以上を持ちまして、終了とさせていただきます。

○山口市長

ありがとうございました。